

登山・登攀の記録

北アルプス 黒部別山大タテガビン南東壁中央ルンゼ～八ツ峰 I 峰IV稜～VI峰Dフェース～劔岳

日時:1996年12月20日～12月31日

メンバー:伊藤達夫(コーチ)、富澤隆一郎、

概要:軽装備で駆け上るのが常識の冬のルンゼ登攀。継続登攀の重装備を荷上げしながら登るなどということは普通は考えないだろう。しかも場所は豪雪の黒部だ。合わせてI峰末端から八ツ峰VI峰フェースの登攀、しかも全装備を持つてのラッシュアタック。天候と雪の状態、雪崩についてどれだけ読めるか、冬山をどれだけ知っているかが試される課題としてこの山行を計画した。

記録

12月20日 晴

アルペンラインゲート(5:35)－黒部ダム(9:35/10:10)－内蔵助谷出合(14:00)－鳴沢出合岩小舎(15:00)

黒部川はワカンを履いて膝上程度のラッセル。入山初日ということもあり、あまり無理せず鳴沢出合の対岸の岩小舎の中にテントを張った。

12月21日 雪

鳴沢出合岩小舎(6:35)－南東壁沢出合(7:05)－正面壁基部洞穴(11:25)

朝から降雪が始まり南東壁沢に入ることをためらうが、偵察の末思い切って突っ込み基部洞穴まで行く。中央ルンゼの取付までトレースをつけた。



南東壁沢を登る

12月22日 晴のち雪

中央ルンゼ登攀開始(8:30)

雪崩が治まるのを待って午後から取り付くつもりだったが、悪天候が迫っているので出発を早めた。

出だしのルンゼ本流から外れた部分を登っている間に雪崩をやり過ごすことにした。登攀を開始して間もなくスラブ状ルンゼから大きな雪崩が出

て南東壁沢に流れ込んでいった。



中央ルンゼ5ピッチ目



中央ルンゼ12ピッチ目で確保する富澤

露岩と灌木帯を登り、4ピッチ目から本流右のスラブ帯の登攀となるが雪が薄く登りにくい。確保支点が不安定で荷上げができず、フォローが2回登

登山・登攀の記録

ってザックを上げる。8ピッチ目でいよいよルンゼの本流に入り二俣まで行く。夜間登攀となる。いつの間にか風雪状態になった。9ピッチ目では荷上げ中に支点のハーケンが抜け、滑車のシステム

が使えなくなり、腕力でザックを引き上げる。10ピッチ目の滝でトップが墜落、右の岩稜にルートを変えノーピンで登って再びルンゼの中へ。11ピッチ目では雪崩が終始流れる状態になり、ルンゼの

黒部別山 大タテガビン南東壁 中央ルンゼ右俣

- | | | |
|---|-----|-------------------------------------|
| ⑮ | 30m | 雪壁を直上後右に行きハングの切れ目から右斜上して終了点へ |
| ⑭ | 30m | 雪壁を左斜上する |
| ⑬ | 25m | 雪稜と雪壁を登りルンゼの中へ |
| ⑫ | 45m | ルンゼの中心線から離れ雪壁を右斜上し雪稜を登りテントの張れるコルに出る |
| ⑪ | 40m | ルンゼの中心線を登る |
| ⑩ | 45m | 露出した滝の右の岩稜を登りルンゼの中心線に戻る |
| ⑨ | 40m | 右俣に入り雪壁を登る |
| ⑧ | 40m | 右へ行き中央ルンゼの本流へ |
| ⑦ | 45m | 雪壁を右斜上する |
| ⑥ | 45m | スラブを右斜上する
太い松の木で確保 |
| ⑤ | 45m | 雪壁を右斜上する
細いブッシュを束ねて確保 |
| ④ | 40m | 急傾斜のブッシュ帯を抜けスラブを登りブッシュで確保 |
| ③ | 45m | 草付凹角を右に渡り直上する
右斜上し雪壁を登る |
| ② | 25m | 垂直の露岩からブッシュ壁を登り大木で確保 |
| ① | 40m | ブッシュ混じりの雪稜から露岩を越える |



作図：伊藤達夫（1996年12月22日～24日登攀）

登山・登攀の記録

中には雪煙が立ちこめ視界がなくなる。確保と荷上げも手探り状態。時々大きな流れに襲われ危機が迫る。

12月23日 雪

中央ルンゼ 12ピッチ目終了点 (0:35)

日付変わっても登攀を続行する。12ピッチ目で右の壁にルートを求め、中ノガビン沢の支流によって尾根が略奪されてできたコルまで登りテントを張る。凍ったヤッケを乾かすために朝まで起きていたが食欲は出ず、喉の渇きを癒しただけでシュラフに入る。夕方薄暗くなってから本格的に起床し、ようやく食事を取った。

12月24日 晴

登攀開始(7:00)－中央ルンゼ終了点(10:00)－南尾根P5(11:30)－P4(12:50)－大切戸(14:20)－P3の肩(17:10)

快晴になった。登攀を再開し、通算13ピッチ目で雪稜に登り左へ雪壁をトラバースして再び中央ルンゼに入る。不安定な雪壁の登攀を続け、15ピッチ目で終了点の雪稜に抜け出す。支点が得られず、スタンディングアックスでロープを固定し、セカンドがユーマーリングの2回登りでザック2個を上げた。

南尾根のP5に出て、P4から大切戸へは2ピッチの懸垂下降。不安定な雪壁を苦勞して登り、P3の肩に出たところで行動を打ち切る。

12月25日 晴のち雪

P3の肩(7:00)－小切戸(8:40)－黒部別山南峰(13:10)－西尾根分岐(16:00)

ハシゴ谷乗越まで行きたかったが、強風に痛めつけられ、西尾根の分岐にテントを張る。

12月26日 晴時々雪

西尾根分岐(9:30)－ハシゴ谷乗越(10:50)－劔沢(13:00)－IV稜 1850^{メートル}(15:30)

休養日と考え遅くまで寝ていた。ハシゴ谷乗越で食糧・燃料のデポを回収し、劔沢に下る。四ノ沢のデブリで劔沢を渡り、右に回り込んでIV稜に取り付き、200^{メートル}ほど高度を稼いだ。

12月27日 晴

出発(6:40)－無名岩峰基部(9:45/10:30)－コル



中央ルンゼ最終ピッチで確保する富澤



八ツ峰 I 峰IV稜

(12:30)－P3(16:25)

無名岩峰の基部から懸垂してルンゼに降り、5ピッチ登ってコルへ。さらに左の雪壁から雪稜に出て、P3まで。

12月28日 雪

P3(7:35)－ラクダ岩手前(10:00)－P8上のコル(13:40)

出発前から降雪が本格的になった。P4はナイフエッジ。P5とラクダ岩(P6)は右から巻く。P7の先のコルからホワイトアウトの中を急雪壁2ピッチでP8上のコルへ。夜になって天候が回復。

12月29日 晴

P8上のコル(7:40)－八ツ峰 I 峰(9:15)－III峰(12:00)－V・VIのコル(15:45)

雪壁3ピッチでIII稜に合流。さらに1ピッチでI峰へ。I峰からはクライムダウン1ピッチでコルに下り、さらに1ピッチ行ったところからI・II峰間ルンゼに向かって50^{メートル}の懸垂下降を行った。そこから1ピッチでI・II峰間ルンゼを横断し、さらに1ピッチでII・IIIのコルに出た。III峰とIV峰からは、どち

登山・登攀の記録



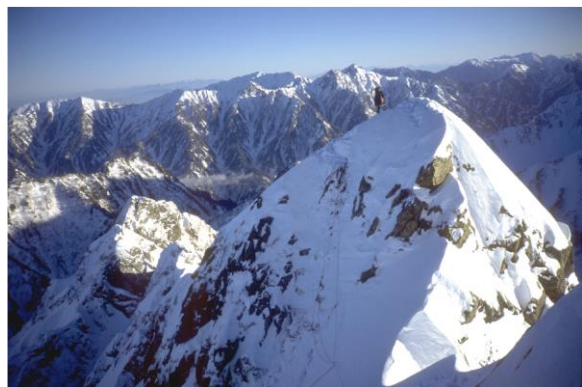
Dフェースの取付に向かう



Dフェース 4ピッチ目で確保する富澤



Dフェース 1 ッチ目



八ツ峰Ⅶ峰

らも 20 ㇿほどの懸垂下降でコルに降りた。V 峰からは 30 ㇿと 50 ㇿの2回の懸垂下降でV・Ⅵのコルに着いた。ワカンに履き替え、Aフェース下の急な雪壁を回り込んでCフェースの下を過ぎDフェースの取付点までトレースをつけ、コルに戻ってテントを張った。

12月30日 晴れ

V・Ⅵのコル(7:25)－Dフェース久留米大ルート登攀開始(8:00)－Dフェースの頭(15:05)－池ノ谷乗越(17:25)

コルでギアをすべて身に付け、すぐに登り出せるようにアイゼンを履いてからワカンを履いて取付へ向かった。富山大ルートは雪壁を登るだけで終わってしまいそうなので、より傾斜の強そうな久留米大ルートを選んだ。

1ピッチ目 10 ㇿ、2ピッチ目 25 ㇿと、短くピッチを区切ったが、3ピッチ目で早くも岩壁部が終わり雪壁に入った。急雪壁の途中で岩を掘り出してボルトを2本打ち込んで確保。4ピッチ目でDフェースの頭へ。傾斜が急で重いザックを担いで登るのは

怖かった。

Dフェースの頭からは、懸垂下降を2回行ってⅥ・Ⅶのコルに出た。さらに、そこから3ピッチでⅦ峰を三ノ窓谷側から巻いてⅦ・Ⅷのコルへ。このコルから長次郎谷の右俣へ下りロープをしまいワカンに履き替えて進み、池ノ谷乗越に出てテントを張った。余った食糧をできるだけ消費しようと朝方まで起きていた。

12月31日 晴のち曇

池ノ谷乗越(7:45)－本峰(8:55)－早月小屋(11:15/45)－馬場島(14:30/15:10)－劔青少年研修センター前ゲート(16:45)

八ツ峰Ⅲ稜から単独で登ってきた左京労山の野村氏と合流して本峰経由で早月尾根を下る。多数のパーティーが上り下りしていて緊張感が一気に消え失せた。馬場島から伊折への辛く長い道のりは劔センター前のゲートまでタクシーが入ってくれたので、一番苦しい最後の30分を省略することができた。

(記／伊藤)